

テーマ別パスファインダー



## 世界の屠畜・食肉文化

—動物を殺す・動物を食べる—



### ✦ パスファインダーとは？

Pathfinder（パスファインダー）とは、探検者／草分け／開拓者の意。レポート作成や論文作成で、何をすればいいのか、どこへ行けばいいのかわからない！そんな人のための助けになるように作成した、学問の「道しるべ」です。

作成日：2019年2月5日  
大阪大学 外国学図書館 | 箕面キャンパス |  
ラーニングコモンズ るくす | LSチーム

## I. イントロダクション

### ■ 屠畜・食肉文化について

動物を全く食べない地域というのは、おそらく世界中探しても無いのではないのでしょうか。人が生活していく上で、動物を殺し食べることは避けては通れない道でした。にもかかわらず、否、だからこそ動物殺しは世界中でさまざまな様相を呈しています。

世界各地に食肉についてのタブーが存在します。食べていい動物といけない動物。食べていい部位といけない部位。地域によってさまざまな文化が生まれました。日本では屠畜業が穢れの観念と結びつき、複雑な差別を作り出すことになりました。ヨーロッパでは宗教的屠畜と動物福祉の思想が軋轢を生んでいます。

あなたは動物を殺すこと・食べることにどんなイメージを持っているのでしょうか。これらの本を読んだ後、どんなイメージを持つようになるのでしょうか。

関係分野：文化人類学、社会学、経済学、心理学

## II. 一般向け

### ■ 内澤句子（2007）『世界屠畜紀行 = The world's slaughterhouse tour』解放出版社

著者が自らの足で屠畜の現場をまわって書いたルポタージュ。読みやすい文体とイラストのおかげで、現場の様子がありありと想像できます。同著者の『飼い喰い 三匹の豚とわたし』もおもしろい。

【総合図-A棟3階 同和人権図書 648.22||UCH】

### ■ 佐川光晴（2009）『牛を屠る』解放出版社

北海道大学を卒業したのち食肉処理場の作業員となった筆者による自伝的エッセイ。加筆修正された文庫版も双葉社から出ています。【総合図-A棟4階 学習用図書 916||SAG】

### ■ 「月刊みんぱく」編集部編（2012）『食べられる生きものたち：世界の民族と食文化48』丸善出版

世界各地で食べられている動物について、豊富な写真とエピソードで綴られます。

【外国図-4階開架 383||360】

## III. 世界では

### ■ シンジルト、奥野克巳編（2016）『動物殺しの民族誌』昭和堂

世界各地の「動物殺し」を扱った民族誌集。狩猟・漁労・屠畜・供儀、さらには嬰兒殺しといった「人殺し」まで、人はさまざまに「動物」を殺しています。これらの実践と生活世界の関わりが、実践者たちの経験を前面に押し出すことで明らかにされていきます。

## ■ 野林 厚志編 (2018)『肉食行為の研究』平凡社

肉食行為を学際的に考察する論集。文化人類学的に、先史考古学的に、心理学的に、経済学的に、肉食行為にまつわる問題を考えます。肉食行為とはこのようにさまざまな側面をもった実践なのです。

【外国図-4 階開架 389||428】

## IV. 日本では

### ■ 桜井厚, 岸衛編 (2001)『屠場文化 : 語られなかった世界』創土社

屠場を中心とした村の食生活など、あまり公にされてこなかった日本文化の一側面が描かれます。これまで「語られなかった世界」について、語ってくださる語り手の意図を損なわないように記述されています。フィールドワークの心構えとしても、学ぶべきところは多いです。【外国図-4 階開架 648||17】

### ■ 【映画】瀬藤あや監督 (2013)『ある精肉店の話』

残念ながら DVD 販売はされていないため、上映会を待ちましょう。外国学図書館での有料上映会を検討中です。興味のある方はぜひリクエストしてください。

<https://www.seinikuten-eiga.com/>

## V. 肉食タブー

### ■ フレデリック・J. シムーンズ (2001)『肉食タブーの世界史』法政大学出版局 香ノ木隆臣, 山内彰, 西川隆訳

豚肉・牛肉・鳥肉・馬肉・ラクダ肉・犬肉・魚肉。人間は様々な肉を食べますが、同時に様々な肉を忌避してきたことがわかります。歴史をさかのぼると、さらに多様な営みが見えてきます。

【外国図-4 階開架 383. 8||19】

### ■ マーヴィン・ハリス (1988)『食と文化の謎 : Good to eat の人類学』岩波書店 板橋作美訳

食肉タブーについて論じる際に必ずと言っていいほど引用される(そして批判される)作品です。著者は世界各地で見られる食のタブーについて、経済的に説明を行いました。ちなみに副題(原題でもある)の“Good to eat”はレヴィ=ストロースの“good to think”\*を下敷きにしています。こちらもぜひ。

【外国図-4 階開架 389. 01||79】他文庫版あり

\*レヴィ=ストロース著; 仲澤紀雄訳 (2000)『今日のトーテミズム』【外国図1 階書庫一般 163||10】

### ■ メアリ・ダグラス著; 塚本利明訳 (1985)『汚穢と禁忌』思潮社

こちらも食肉タブーを論じる際には避けては通れない名著です。旧約聖書レビ記における禁食規定を中心に論じられています。【総合図-A 棟3 階 学習用図書 389||DOU】他新装版、新書版あり

## ✧ [パスファインダーの凡例]

■ 図書情報は以下の順に表記しています。(主に論文の参考文献に使われている書式です。)  
著者名 (出版年) 『本の名前』 出版社名, 翻訳者名 (あれば)

■ 説明の最後に、【 】で貸し出し可能な図書館と配架場所、請求記号を記しました。

総合図 → 総合図書館 (豊中キャンパス)

生命図 → 生命科学図書館 (吹田キャンパス)

理工学図 → 理工学図書館 (吹田キャンパス)

人図 → 人間科学研究科図書室 (吹田キャンパス)

外国図 → 外国学図書館 (箕面キャンパス)

外国図-雑誌 → 直近1~2年に出版されたものは3階雑誌コーナー、バックナンバーは1階書庫

電 → 電子ジャーナル、電子ブック

※雑誌、電子ジャーナルは、すべての巻号が利用できるとは限りません。

■ 検索を容易にするために、ISBN (各図書固有の識別番号) や ISSN (各雑誌固有の識別番号) を記している場合もあります。

■ 外国学図書館を中心に紹介していますので、記載している場所以外でも貸し出し可能な場合があります。図書館各階にある検索端末で確認するか、カウンター/LS デスクまでお尋ねください。